



Team KYGNUS SUNOCO



Round1-SUZUKA

DRIVER : HIROAKI ISHIURA
CIRCUIT : 1LAP=5.807km
RACE : 38LAPS(220.666km)

■新体制での開幕戦、8位完走でポイント獲得！

新チーム「Team KYGNUS SUNOCO」として、2011年のフォーミュラ・ニッポンに挑むこととなったカーナンバー8、ドライブするのは石浦宏明、監督には土屋武士が就任。東日本大震災の影響により1ヶ月遅れた開幕戦だったが、週末の鈴鹿サーキット（三重県）には20,000人を越える観客が訪れた。

5月14日（土）に行われた予選はノックアウト方式。Q1の20分間は13:30開始。開始後すぐにユーズドタイヤでコースインした石浦は、状況確認ののち一度ピットに戻り、セッション最後のアタックに備えてニュータイヤに交換。残り6分になったところでコースインしアタックを行ったが、ほんのわずかな差ながら13番手。全16台中Q2への出場が許されるのは12番手までというルールのためQ2への進出はならず、ここで予選を終了した。

決勝を迎えた翌15日（日）も晴天となった。13:45にスタートしたフォーメーションラップを終えると、各車一斉にスタート。石浦は良いスタートを決め、ポジションを上げて1コーナーへ。しかしその先のコーナー途中で、前方の2台が絡むアクシデントが発生。それを避けたために再び順位を落とし、1周を終えて13番手。ラップタイムは順調ながらなかなか前車をパスできない状態が続いたために早めのピットインを決断し、12周を終えてピットイン。このタイミングが功を奏し、全車がピット作業を終えると石浦は8番手。レース終盤は前車に追い付き、また後車も迫ってくる中、4台が連なったの走行となったが、8位を守った石浦はポイントを獲得、決勝では粘りのレースを見せた。

⇒石浦宏明のコメント：

「震災の影響でシーズンオフのテストが中止となり、今回もこのレース前にテストが設けられたのですが残念ながら天候は雨、すごくテストが少ない中で戦いになりました。予選では、タイヤのベストな状態でのアタックができず、0.069秒差という僅かな差ながらQ1で予選が終了してしまいました。当然Q3までのシミュレーションをしていたので、予選後はさすがにショックでしたが、気持ちを切り替えて決勝を迎えました。良いスタートが切れて何台かをパスした手応えがありました。1コーナーで起きた前車の接触を避けるためにかなりポジションを落としました。なかなか前車をかわせずにいたところで、武士監督のアドバイスで12周を終えてピットインしました。そのタイミングでピットに入ったことで結果的に数台パスすることができ、本当に的確なタイミングだったと思います。結果ポイントを取れたことも考えると、個々ができるだけのことを精一杯やり、それほど悪くはないレースだったと思いますが、課題は残りました。次は予選からもっと前に出て、速さをアピールできるようなレースをしたいと思います。」

⇒土屋武士 監督のコメント：

「新生チームの初戦ということで、とにかく良い流れを作りたいとの思いでレースウィークに挑みました。予選は色々な意味で自分たちの力を引き出し切れなかった感があります。Q1敗退13番手という結果は大きな反省材料で、それを受け止めて、決勝ではチーム個々が自分たちに来ることをしっかりやる、最大限のレースパフォーマンスを引き出すことを意識し、ドライバーが気持ち良く走れ、スタッフ個々が気持ち良く仕事ができる環境を整えるよう努めました。最初のスタートの混乱を石浦選手は上手くすり抜け、そこからは十分良いレースができる感触は得られていました。悩んだのはピットのタイミングで、どこで入れるか、誰に照準を合わせるかということと考えた結果、すごく良いタイミングで入れることができましたと思います。後半はタイヤに厳しいロングランになりましたが、それも石浦選手の頑張りで8位、ポイントも獲得し、次に繋がるレースができたと思います。震災後の大変な状況の中、自分たちが大好きなレースという仕事をさせてもらい、その中でもこうやってみんなで一丸となって走り切ることができたということに感謝しています。それに報いるには、自分たちのレースパフォーマンスを上げることが必要で、次戦以降も気を引き締めて頑張りたいと思います。応援ありがとうございました。」

